

**2021年度 高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要 (WEB 公開用)**

高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [野上 翼]

学年・組・番号 [2年 G組 21番]

研究課題： 附属校連携の意義について
～「附属連携プロジェクト」の活動から見る早稲田の可能性～

(英文) The Significance of Affiliated School
～ Possibilities of Waseda from the Perspective of WASS ～

研究概要：

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について200～400字で記入してください)

附属連携プロジェクトとは、高等学院と本庄高等学院間の連携を促進するために2020年秋に発足した団体であり、現在3年目を迎えている。昨年度、附属連携プロジェクトの活動の一環として、附属連携の活性化や両学院生の附属校連携への意識向上に関する調査を行った。今年度は昨年度から行っている研究の継続として、弊団体の活動を通じて附属校連携の意義について研究し、その必要性を両学院に訴えることを目標とした。この研究のため、弊団体は両学院生が附属連携により関心をいただけてもらえるような生徒参加型のイベントを主催した。幸いにも、今年度は昨年度と比べ新型コロナウイルス感染症の感染状況が好転し、文化祭での出展をはじめ対面での活動を多く行うことができた。弊団体の活動によって、将来早稲田大学の中核を担う両学院生の前もった繋がりを構築し、ひいては将来の早稲田大学に大きな影響を与えることができると考えている。これらをもって、本研究を進めた。

研究成果：

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について200～400字で記入してください)

今年度は、附属連携の必要性を両学院生に訴えることを目標としており、広報活動に一層の力を入れた。新歓活動において、フルカラーのチラシを作成し、附属連携プロジェクトの知名度向上に繋げた。具体的には、本庄高等学院と高等学院をzoom上で繋げて交流する新歓イベントを行った。新歓イベント参加者からは「色々な人と交流ができて楽しかった」「是非附属連携プロジェクトに入りたいと思う」といった声を聞くことができた。

そして今年度は、両学院の文化祭が対面で実施された。高等学院の学院祭では、それまでの活動報告をポスターで掲示し、またプロジェクト発表の場を借りて、附属連携について発表を行った。本庄高等学院での稲穂祭では、進路相談会や本庄・学院を比べる展示企画、両学院の先生に行わせていただいたインタビュー企画の展示を行い、弊団体の活動をより多くの人に認知していただける機会を設けることができた。来年度も両学院間の連携を活性化することを目標に、多くの両学院生を巻き込んだイベントを実施していきたい。

研究者：(以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 2年G組 野上翼

研究分担者 2年A組 小松加名人 2年G組 川村賢人

担当教諭 武沢護学院長

(受給額： 4万円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名がWEBページ上で公開されることに同意します
(次のページに続きます)

研究成果写真：

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)

① 本庄高等学院における新歓イベントの様子



② プログラム参加者の集合写真



※プライバシー保護のため、モザイク加工を施している。

以上